

豪い別嬪さんだすなア。私い貴女に頼みがおますね。諾いて貰えますやるか」女中「どんな事だす」丁稚「そやけどなア、云ふて仕舞ふてから嫌や」云われたら恥しい依てなア」女中「何んな事だすいナ云ふて見なはれ」丁稚「そんなら云ひますけど、恥かしい依て鳥渡此露路へ這入とくなはれ。アノナア。わしとこの内はお朔日と、十五日に焼物が付きまね。夫れが尾の處は魚屋が大きい切て來まんのや、貴女私いには屹度尾の處附けとくなはれや。ア、恥かし」女中「まア吃驚した、何や知らん思ふたら、そんな事だつかいナ、宜しふおます」丁稚「女の人と一緒に歩いたら、此邊で丁稚仲間を省かれますのや、私い先に去にます依て後から來とくなはれや。此辻曲つて三軒目に十一屋とした内が在ますやる彼家だつせ、……………ヘエ番頭はん唯今」番頭「エ、イ。バタ／＼と何ぢや。使ひ上手とは貴様の事ぢや。道で油とつて門口まで來ると、バタ／＼走りくさる。何處へ往てたんやい」丁稚「ア、忘れて貰ふたらドモ成らんア。女婢さん呼びに往きましたんやがナ。貴方云ふてなはつたやろ。別嬪の女婢を連れて來い、本眞に別嬪やつたら十錢遣る云ふてなはつた依てに、一番美えのん連れて來ました應對通り十錢頂きまひよう」番頭「其様に美えのが有るか」丁事「そら別嬪だつせ。サア十錢」番頭「屹度別嬪に違ひ無いか」丁稚「決して如才はおまへん」番頭「ア商賣氣に成てくさる、後刻で遣る哩」丁稚「サア夫れがなア、後刻で貰えなんだ依てに云ふて、お上へ願ふ譯に往かず、モウ誰方はんも、此節は一切現金で戴いて居りますね」番頭「阿呆云やがれ。サア十錢遣てコマス。夫れで女婢は何時來るね」丁

稚「今其處まで一緒に歸て來ましたんやけど、一足先へ御注進に來ましんやモウ來まつせ」番頭「何ぢや。モウ直ぐに來るのんかい。夫れを早ふ云わんかいナ。誰や今二階へ上てるのは、藤七とんか、チョツと私の羽織持て降りてんか、イヤ夫れや無い、此間仕立て、來たのや、行李の一番上に容れたア、ア、夫れ／＼憚りさん鳥渡かして。夫れから誰やつたいな、此間夜店で鏡購ふて來たのは。ア、久七とんか、チョツと貸してんか、何ぢやい鳥渡位。セチベンな事云ふ物や無いわいナ。減る物や無いがナ怪つ態な奴やでホンマに。…………失敗ふた、豪ふ髭が伸びてるワ。斯んな事なら、昨夜床屋へ往ときや良かつた…………コレ皆もつと凹んでんか、何や夫んな處へヅラツと竝んで全で男の見勢附きやがナ。お前はん等かて女の四五人も居る處へ往たら恥かしいやろ、まして女の事や、恥かしがる哩、凹*



* ンでなはれ」番頭一人前へ出て見合ひでもする様な氣で、待て居る處へ這入て來ましたのが右の女中さん、初めて來た家、恥かしいと見えて口へ袖を當て、頭とお髻を七三に振て、子子が